

<p>IASH, IAMAP, IAPSO IASH, IAMAP IASH and all interested Bureau 13 UMC</p>	<p>Remote sensing techniques Snow and ice in mountainous areas Mathematical models in geophysics</p>
<p>IAMAP, IAGA IAMAP, IUCRM IASH, IAMAP IASH and all interested Council</p>	<p>Session of invited review paperson results of Upper Mantle Project Planetary Atmospheres Radar and Laser Methodsin Cloud Physics Snow and ice in mountainous areas Mathematical models in geophysics</p>

阿部正直著『つるし雲』の特価販売

今回、気象協会から上記著書が特価 900円（送料別、定価 1500円）で販布されることになったので、必要の向は気象庁内の同協会に申込みたい。B 5-76 ページ、目次の一部をかかげると次のようである。

なぜ雲を選んだか、映画と雲、雲は生まれ出る、雲を掴む、氷の結晶の雲、渦巻く雲、ふとんのような雲、昇る熱い空気で作れる雲、流れ雲、不連続面、豆のさやのような雲、山の気流実験、雲観測の思い出、雷の話、富士山の雲、阿部正直略歴

評議員・理事・監事懇談会記録

日 時 昭和46年1月22日 17:30~19:00

場 所 気象庁第1会議室

出席者 評議員：吉武、北岡、齊藤、伊藤、日下部、和達、畠山、

常任理事：山本、大田、関口、大井、神山、川村、小平、関原、藤原、岸保、北川、伊藤、駒林、

理事：須田、高橋、毛利、木村、青木、多賀、

監事：今井、根本、窪田長期計画委員長

懇談事項

(1) 気象学長期計画の現状について

窪田委員長から、現在までの進行状況と今後検討すべき問題点について報告があった。

研究者の育成問題、気象研究所と大気物理研究所との関連問題等について活発な討論がなされた。

(2) 日本気象学会の公害問題に対する取り組み方について

以下のような点について活発に論議された。

◎気象学会としては長期的観点から世界的規模の気候変動、局地的都市気候の変化等を中心とし、下記の諸問題に積極的に取り組むことが望ましい。

- ・世界的規模の監視態勢
- ・汚染の気象現象への影響（たとえば、放射への影響など）
- ・自然現象の浄化作用の研究
- ・大気大循環におよぼす影響等の数値実験
- ・測定方法の開発
- ・高煙突問題

◎研究組織や体制について、WMO はすでにある方向を打ち出しているが、その他の外国の諸機関、海洋物理学など他分野との連けいの強化。

◎研究啓蒙活動の促進（シンポジウム、セミナーなどの開催）